

サポートセンター通信

第48号

発行元：松本市市民活動サポートセンター
〒390-0874 松本市大手 3-8-13
松本市役所大手事務所 2 階
TEL/FAX：0263-88-2988
E-mail：support-center@support-center.jp
URL：http://www.support-center.jp

市民活動フェスタ2013「ぼくらの学校」が開催されました！

市民活動団体の発表・交流の場である市民活動フェスタ 2013in 松本「ぼくらの学校」が9月28日、29日の2日間にわたり、あがたの森にて2,000人の来場者を集め賑やかに開催されました。

4回目の開催となった今年の「ぼくらの学校」は、“松本一受けたい授業”をコンセプトに、会場をあがたの森全体に広げ、旧高等学校の教室をフルに活用し、それぞれの活動をわかりやすく子どもからおとなまで楽しみながら学んでいただけるよう、43団体がそれぞれ工夫を凝らしたブースで多くの市民を呼び込みました。



インターナショナル教室 世界の会話とお茶を体験し異文化に触れる多文カフェ



松本一受けたい授業 理科講義「ツキノワグマってどんな動物？」にクマ出没！



平和・いのち教室 東日本復興支援「ともしびプロジェクト」のキャンドル作り



子どもわくわくひろば おもちゃ館の信州産木製ボードゲームで遊ぶ親子



パソコン教室 パソコンが初めての子どもたちも簡単お絵かきに挑戦



自然環境・エコ教室 エアロバイクを使った発電の仕組みを説明する実行委員長



自然環境・エコ教室 食器のリユース「もったいない市」にて回収食器を無料提供



子どもわくわくひろば 木のぬくもりと香りに包まれた森のつみ木広場で大作に挑戦



ワールドカフェ アフター5は団体交流で「2020年の松本」について語り合った

ステージ発表、パネル展示、講義、工作や遊びなどのワークショップ、そして喫茶や販売など、多種多様な形式のブースをスタンプラリーでめぐり、学校で学ぶことができない社会のことを学んだ2日間でした。

11月1日のふり返りの実行委員会では、「多くの親子連れに参加いただけて満足」との感想をいただきました。さらに「幅広い世代への広がり」「集客を如何に活動への動機づけにつなげていくか」など、来年度に向けて一歩前進した課題も出されました。パワーアップした来年度の「ぼくらの学校」が楽しみです。

Close Up!

今回は、ぼくらの学校 2013 を盛り上げていただいた 2 団体を紹介します。

CFM 実行委員会

Tel : 090-2726-3761 (理事長 小林美穂)
URL : <http://cfm2013.jimdo.com/>



ぼくらの学校「シナプソロジーリフレッシュ体操」のようす

「CFM」とはフィットネス用語「チャリティ フィットネス マラソン」の頭文字で、エアロビクス・ヨガ・ヒップホップ・太極拳など様々な手法を取り入れたエクササイズを意味する。NPO 法人設立申請時に「マラソンという意味が一般の人には分かりにくい」との指摘を受けたが、「ロゴも作ってしまっていたので、いっそのことチャリティ フィットネス まつりにしました。」そう笑顔でお話をしてくださるのは、CFM 実行委員会理事長の小林美穂さん。小林さんを含め中心メンバー5人

はプロのインストラクターをしている。「高齢化社会、子どもや若年層の低体力化、女性の健康や心の病、地域力の低下など社会に顕在する諸問題を、心身の健康づくりや人間関係づくりを通して解決したい」と、これまでおこなったイベントは驚くことに毎回約500名を動員。上田市へAED装置寄贈や、震災の年には栄村役場に50万円寄付・栄村小学校にCD装置を寄贈、出張ダンス授業など、子どもから大人まで地域のみながいきいきできるように精力的に活動している。

ここでエピソードを一つ。ある高齢の女性が「海外旅行ツアーを申し込んだのですが、ツアー中に体調を崩したり、歩く速度についていけず迷惑をかけるかもと心配し、ツアーを断念しました。」という話を小林さんにしたという。小林さんは「自分に素直に生きてほしい」と思い、その女性にCFMを通じて体力づくりしていただいた。その結果、心身ともに自信がついた女性は海外旅行を楽しみ笑顔で帰ってきたという。「人は身体を動かすことで自然と笑顔になり心も元気になる。誰もがいきいきと元気な健康寿命延伸をめざして活動していきたい。」と、終始はつらつとした表情でお話いただいた。(はやし)

平和の種をまく会

Tel / Fax : 0263-62-2232 (代表 安藤真吾)

会が発足した2006年は、アフガン、イラク戦争が起こり、世界情勢は非常に不安定な状態だった。昨今、戦争は大戦ではなく、地域紛争・テロ型へと変化している。そのような「平和」と呼べない状況の中で、日本人の役目として平和の種をまき、世界に貢献すること、それが活動の原点である。

「平和の種をまく会」は、今年の市民活動フェスタ『ぼくらの学校』で「原爆と人間展」の30枚のパネル展示を行った。パネルは「原水爆被害者団体協議会」が制作したもので、原爆の恐ろしさ、悲惨さの理解を訴えるものだった。日本は唯一の原爆体験国であり、第5福竜丸の被爆や、現在は3.11震災後の福島原発の問題を抱えており、核問題について考えるにあたって、世界においてこのような国は他にない。フェスタ当日、来場者がそれぞれの立場での思い、考えを持ち、真剣にパネルと向き合う姿に手ごたえを感じた。フェスタのように多くの人が集まる機会に署名活動もしていきたいと語った。



ぼくらの学校「原爆と人間展」のようす

現在の「平和の種をまく会」の活動は、2か月に1度のニュースレターの発行が柱になっている。ニュースレターは、大量消費を考え直す暮らし方、食の安全等の身近な問題から、戦争や貧困等の国際的な問題まで、多岐にわたるテーマで原稿を集め編集・発行している。独自のイベントや企画は減っているが、会のメンバーが関連する外の会合に参加し活動に連携することで、色々な人との輪が広がっている。今後は、この繋げ役としての立場が重要と考える。

お話を伺い、今私たちは「平和」に向けての大事な岐路に立っているのだと改めて実感させられた。(さとう)